

日本でお金造られるようになったのは、今からおよそ1300年前のことです。約140年前、二戸地区でも、浄法寺と軽米でお金づくりが行われていました。しかし残念ながら、浄法寺や軽米で造られていたお金は、本物ではなく偽物とされていました。当時、政府認可の製造所とされていたのは、大迫の外川目銭座でしたが、お金の流通に製造が間に合わなかった盛岡藩は、浄法寺で造られた偽金をそのまま流通させていました。流通はされていましたが、政府の

無許可のお金なので偽金扱いとなつたのです。浄法寺の偽金に、次のようなお話があります。昔、浄法寺の一人の男が娘の嫁入り道具をそろえるために八戸へ出かけましたが偽物のお金を使ったために、男は捕まってしまう。役人が、偽金について詳しく調べると、男を連れて浄法寺へ戻りましたが、その途中で男は川に飛び込んで死んでしまいました。自分たちが造った偽金が使われたということで、人々は造ったお金と道具とを隠したということです。もしかすると、まだ隠されたままかもしれないね。

二戸のお金づくり①

市埋蔵文化財センター

☎ 23-8020

②

どきどき
たいむとらべらー



(上) 浄法寺出土の寛永通宝・削頭千(鉄製) (右) 天保通宝(銅製)

こみゅにTeaたいむ

11 杯目

花きらめくまちへ!

花壇コンクール始まります

『住みよい二戸市をつくる市民運動推進協議会』って聞いたことありますか? 協議会では、二戸市を花いっぱいのにちにしようと、今年も『地域花壇コンクール』を実施します。

コンクールに参加する協議会加盟団体に花の苗をくばり、その年、美しくまちを彩った地域の花壇の中から、優れたところに賞を贈ります。ただいま、加盟団体を募集中! あなたもコンクールに参加してグランプリ花壇をめざしてみませんか?

昨年の花壇コンクールでは、一般参加者の菅サチさんが栄えあるグランプリに輝きました。参加団体のどの花壇も入念な手入れや様々な工夫が見られ、二戸に美しい花々があふれました。参加団体、ご協賛企業のみならず、ありがとうございました。

今年の『第3回地域花壇コンクール』に参

加するには、多くの人が見ることができる花壇であることなど、一定の参加条件が必要です。

詳しくは市のホームページをご覧ください。事務局のある地域づくり推進課(市役所内)までお問い合わせください。

また、花壇コンクールをより充実させるため、花壇の肥料提供や協賛金などにご協力いただける市内の企業を募集しています。



昨年のグランプリ・菅サチさんのプランター花壇



昨年の準グランプリ・二戸時計工業(株)さん

この欄の問い合わせは、市地域づくり推進課(内線655)まで